

高齢者の事例検討（5）

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

通所介護・訪問介護の計画の勉強会等は、ケアプランをいかに理解しその計画にもとづいて実施していくかの内容になります。

勉強会等の参加者は、ケアプランの中身にそった現場サービスをどう実施していくかで現在悩んでいると思いますし、利用者等との関係においても同様だと思います。

サービス実施にあたっては、そのサービスを行う人がひとりではないと思いますので、いかに情報共有できているかになります。そのためにも理解できる計画書・手順書が必要であり、その内容について意見交換及び評価ができるかになってきます。

勉強会では、計画書・手順書等の作成にあたって参考となる内容を望んでいると思います。その目的にそった内容にするためにも各参加者の考え方の整理が必要であり、一定のルールを守ることで充実した時間を共有できることとなります。

勉強会等について、その進め方及び留意点を説明します。

1 この事例検討の目的は、

- ・ 発表者、参加者が、日常の計画書・手順書等の作成を振り返る
- ・ 利用者への自立支援、尊厳の確認
- ・ アセスメントの内容確認
- ・ 的確・適正なサービス等の確認
- ・ 目標期間の設定の重要性
- ・ サービス内容の確認と効果
- ・ 継続ケースにおける評価の認識
- ・ ケアマネジャーとの調整の確認

などですが、サービス内容は利用者、家族等に理解されることが前提ですから、そのことも大切に考えてください。

2 進め方及び内容

（1）事例の発表

発表者は、事例の計画書・手順書等の作成に至った理由を説明する。

- ・ アセスメントの概略説明

- ・計画書・手順書等の説明
- ・日常サービスの実施状況の説明

(2) 質問

参加者による質問

- ・高齢者の事例検討（１）～（４）の留意点等参照
- ・事例ケースの共有
 - 計画書・手順書等の理解
 - 日常サービスの実施状況の理解
 - 記載されていない内容の理解
 - 事業所の関わり方の理解

(3) 意見

参加者による意見交換

- ・高齢者の事例検討（１）～（４）の留意点等参照
- ・事例ケースの方向性
 - 計画書・手順書等
 - 日常サービスの実施
 - 記載されていない内容
 - 事業所の関わり方

(4) まとめ

利用者、家族等が短期・長期の期間における満足度の向上
的確、適正なサービス実施

※

- ① 新規ケース、継続ケース並びに移管ケースにおいては、その内容、方向性が異なりますので注意してください。
- ② 現場における対応は、同じ内容の記載文書であっても実際は異なることが多いので注意してください。
- ③ サービスの実施にあたっては、時間によって対応が異なりますので注意してください。
- ④ サービス内容については、情報の共有ができるかどうかによってことなりますので注意してください。
- ⑤ サービスの水準は、事業所になりますので注意してください。